

2010年冬山合宿 飯豊後発隊記録

2009年12月29日～2010年1月2日

メンバー CL;阿部、小林、吉高神

山域 飯豊連峰

ルート 長者原-西俣尾根-西俣峰-枯松峰-三匹穴露岩-往復

- 12/29 22:00集合、30日2:00 JRうぜんまつおか駅着就寝
- 12/30 6:00起床、長者原へ移動。梅花皮荘前の駐車場に車を置く。
準備をしていると、登山グループが乗ったワゴン車が停まった。
下りてきたのは春の飯豊で会った新潟山岳会の会長だった。
彼らも西俣尾根を登るとのこと。年末年始の荒天を気にしながらお互いの安全を願う。
7:30歩き始める。
西俣尾根にとりつき西俣ノ峰を目指す。途中で下山中の先発隊に出会う。
えぶりさし岳まで行けたとのこと。さすがパワーの差を感じる。
登高を続け、西俣ノ峰を経て枯松峰先の鞍部にテントを張る。ラッセルも無く、天気にも恵まれ快適に歩けた。頼母木山からえぶりさし岳に続く稜線が美しかった。
途中二か所にテポがあり、その量からすると映彩ランタン、下越山岳会のものと思われる。
明日からの荒天を予想しつつ天気図をとりながら晚餐を楽しむ。
案の定、宵の口から吹き出しが始まった。遠くからジェット機の轟音のようなうなりが聞こえた
数秒後には、テントを押し倒すような強風が吹き付ける。風は一晩中続いた。
- 12/31 吹雪の中、テントを撤収し頼母木山を目指す。ラッセルを交代しながら歩を進める。
ブナの樹林帯を抜け三匹穴の露岩まで達したところで強風のため登高を断念する。
下りはペナトを目印に歩く。いつものことながら、阿部さんの絶妙な間隔の打ち方には感謝する。
昨晚の幕営地まで戻りテントを張る。風はますます強くなってきた。天気図も典型的な冬型である。
夜半と明け方に、風下側に寝ていた小林さんがテントから出て雪かきを行った。
吹き溜まりとなり雪に押しつぶされてしまったらしい。雪は霰状になりパチパチと打ちつける。
- 1/1 外は吹雪。シュラフの中で風が弱くなるのをひたすら待つ。
弱くなったところを見計らってテントを下におろす計画だがその気配がない。
屋近くになっても状況が変わらないため、意を決して外に出る。
パッキングを終え歩き始めるが強風で飛ばされそうになる。
枯松峰を過ぎたあたりで新潟山岳会7名が停滞していた。風を避け、テントから雪洞に移るところだった。
1,100m付近の雪原は、所どころ木につけられた赤布を目印に下りる。ここでは小林さんの視力が威力を発揮する。西俣の峰を過ぎ尾根を少し下ったところでテントを張る。周囲は少しずつ暗くなってきた。ここまでくれば風も避けられるかと思ったが変わらなかった。風が巻いていて双方から来る。
テントの中で暖をとりながら、残ったアルコールを飲み食事をとる。
- 1/2 相変わらず風が強い。昨夜の積雪は約60cmほど。
撤収を終え下山の支度をしていると、新潟山岳会が下りてきた。雪洞もあまり快適ではなかったらしい。前後して下山を始める。十文字池を過ぎたところで下越山岳会が上がってきた。
何度か飯豊で会ったメンバーで、先方も我々を覚えていた。この天気では、オトミまで行けばよいかと話していた。
屋十二時ごろ取りつきに下りる。樹林帯の中をラッセルしながら民宿奥川入に着く。
新潟山岳会と挨拶をかわし別れる。
雪をかぶった車を出し梅花皮荘で湯につかり帰路についた。

帰ってから、冬型でなぜ霰が降るのかと調べてみた。

中谷宇吉郎著「雪」によると、冬の十勝岳で観測をしていたらしく、「その出来る気象状態は、上層に雪の層があり、その下に過冷却の水滴より成る雲の厚い層があることになる。」と書かれていた。

今回の山行は、改めて豪雪と想像を超える強風が吹き荒れる冬の飯豊を痛感した。

吉高神記

後日ネットで調べたところ、小国山岳会の井上邦彦さん(山と高原地図 飯豊山 を執筆した方)が12/29日、西俣尾根から枯松峰までピストンした記録がありました。それによると当日頼母木山方面は、三匹穴から上は見えなかったと書いてありました。その中を、えぶりさし岳に登頂した先発隊の力を賞賛します。